

# 令和7年度奈良市防災意識アンケート調査報告書



令和8年1月

奈良市危機管理課

## 目 次

- |           |     |
|-----------|-----|
| 1 調査の概要   | 3 頁 |
| 2 調査結果の概要 | 4 頁 |



## 1 調査の概要

### (1) 目的

奈良市の防災対策、災害時（地震・風水害）の備蓄の状況・家庭での備え等についての意見を集計し、今後の防災対策の見直しを図ります。

### (2) 対象

主に、奈良市内在住・在勤・在学の方

### (3) 期間

令和7年8月22日（金）から11月30日（日）まで

### (4) 方法

ア スマートフォン等で二次元コードを読み取りオンラインで回答するか、外部リンクから直接回答

イ 郵送等で紙媒体でも回答可能

ウ 8月22日（金）から9月5日（金）にかけては、奈良市市政モニター制度を活用しての実施

※市政モニター制度とは

住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の奈良市民の方に「市政モニター登録」をお願いし、年間を通じて継続的にアンケートにご協力いただく制度です。登録いただいたモニターの方に対して、年複数回、メールでアンケートフォームのURLを送付し、ご回答をいただいています。

### (5) 広報手段

X、フェイスブックなどの各種SNS、広報誌への掲載、市役所内でのチラシ配布、テレビ放映など

### (6) 回答数

1,232件

（オンラインによる回答：1,227件、紙媒体による回答：5件）

### (7) 報告書の見方

ア 構成比は各質問の回答者数を百分率（%）で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100.0%にならない場合があります。

イ 複数回答の場合、回答者数に対する構成比を表示しているため、構成比の合計が100.0%を超える。

## 2 調査結果の概要

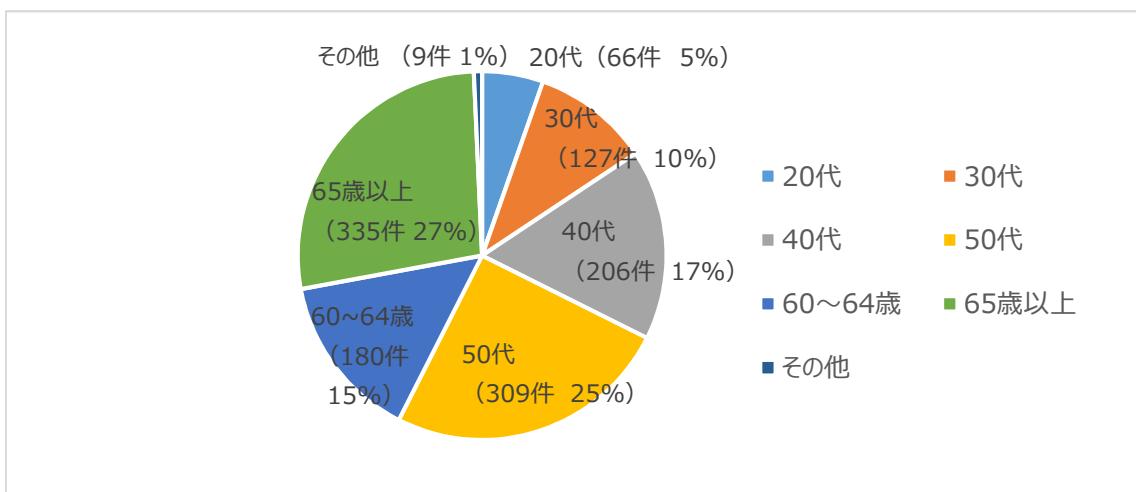
### (1) 回答者の属性等

回答者の「年代」は、「65歳以上」が27%と最も多く、次いで「50代」が25%、「40代」が17%、「60~64歳」は15%でした。

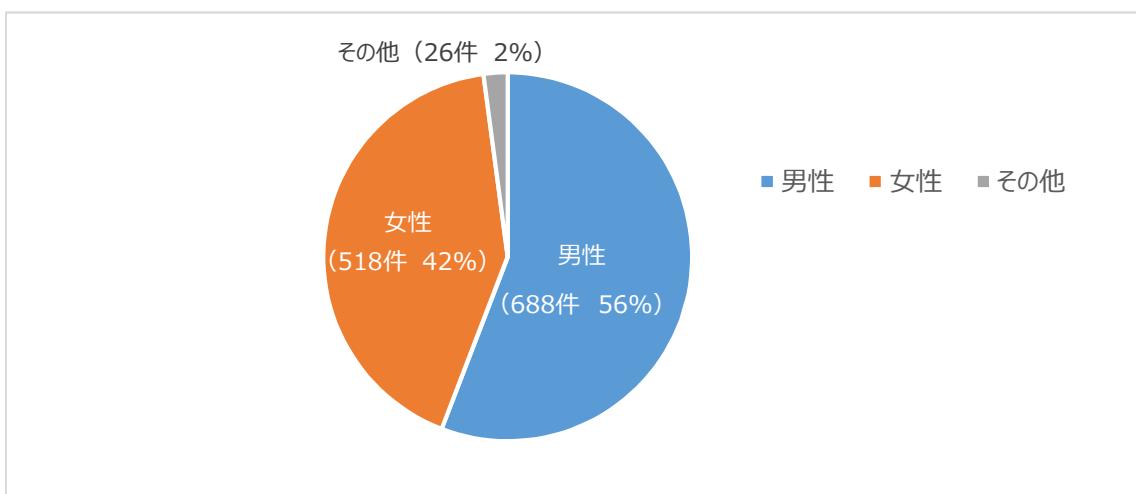
「性別」は、男性が56%、女性が42%でした。

「家族構成」は、「夫婦のみ」が31%と最も多く、次いで「夫婦と子ども（就学児以上）」が29%となっています。

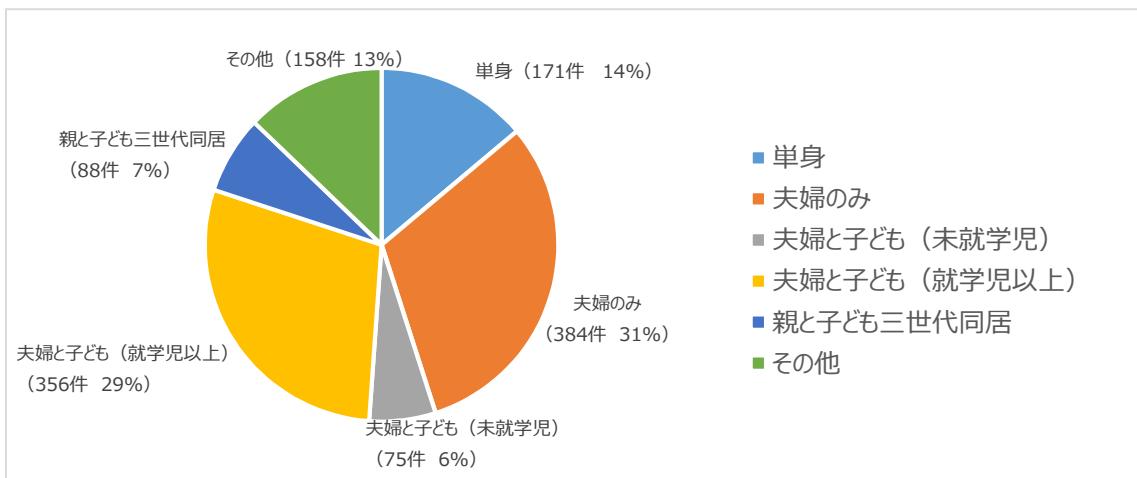
(年代)



(性別)

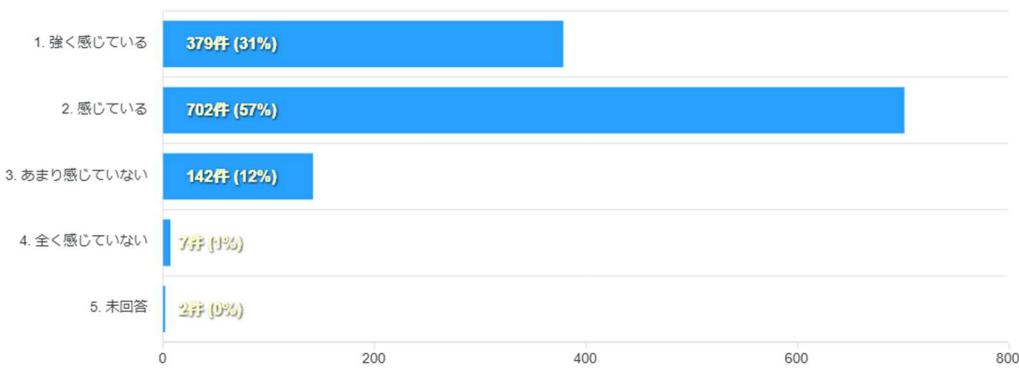


## (家族構成)



## (2) 災害に対する危機感の有無

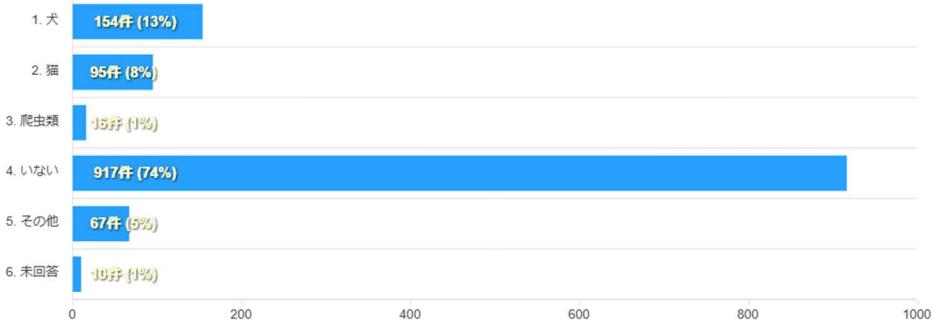
「災害に対してどの程度の危機感を持っていますか」について、「感じている」が57%と最も多く、次いで「強く感じている」が31%、「あまり感じていない」が12%、「全く感じていない」が1%であり、9割近くの方が災害に対して危機感を持っていることが分かりました。



## (3) ペットの有無：複数選択可

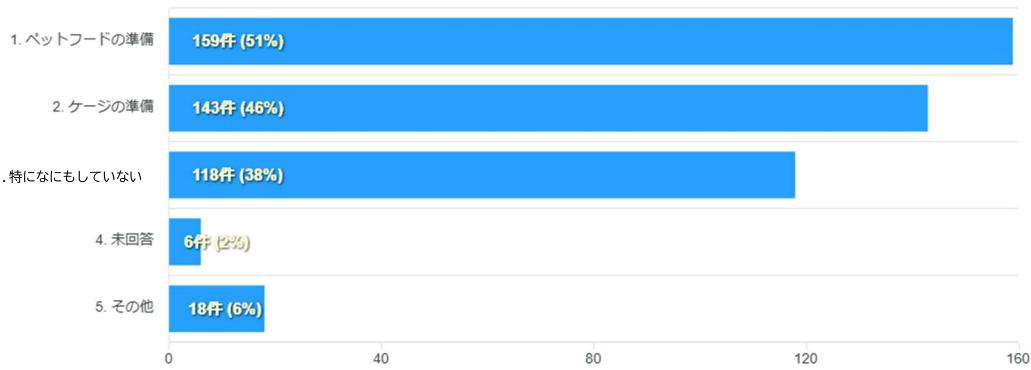
「いない」が74%と最も多く、次いで「犬」が13%、「猫」が8%でした。

また、「ペットがいる」と回答した方に対する「災害時のペットの同伴避難について、どのような準備をしていますか」の問には、「ペットフードの準備」が51%と最も多く、次いで「ケージの準備」が46%でした。一方で、「特に何もしていない」の回答も4割近くありました。



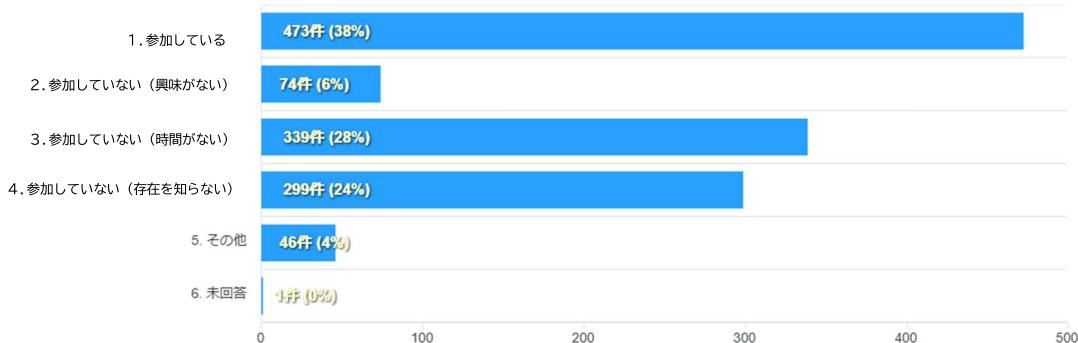
(災害時のペットの同伴避難について、どのような準備をしていますか)

「ペットがいる」と回答した方のみを対象とした問：複数選択可



#### (4) 地域の防災活動を行う組織の活動への参加の有無

「参加している」が38%と最も多く、次いで「参加していない（時間がない）」が28%、「参加していない（存在を知らない）」が24%でした。  
「参加していない（興味がない）」は6%にとどまっています。

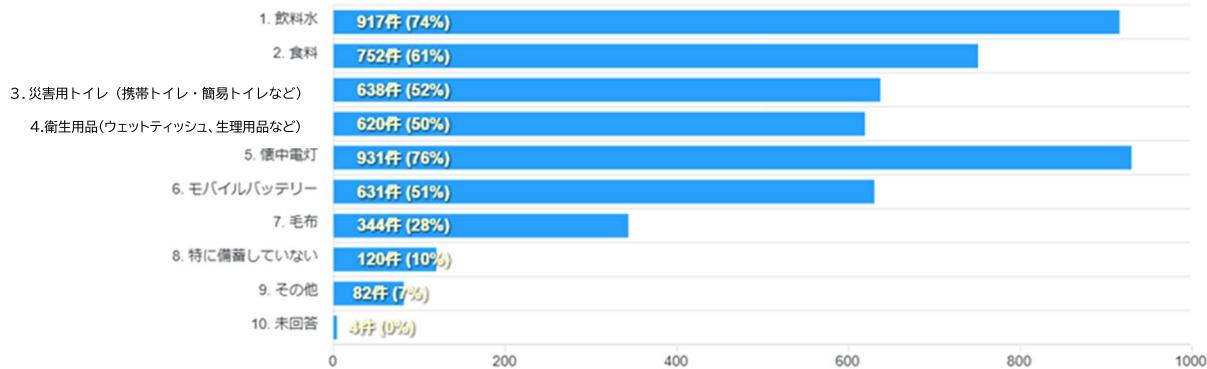


#### (5) ご家庭で災害用に備蓄しているもの：複数選択可

「懐中電灯」が76%と最も多く、次いで「飲料水」が74%、「食料」が61%でした。一方で、「特に備蓄していない」も1割を占めました。

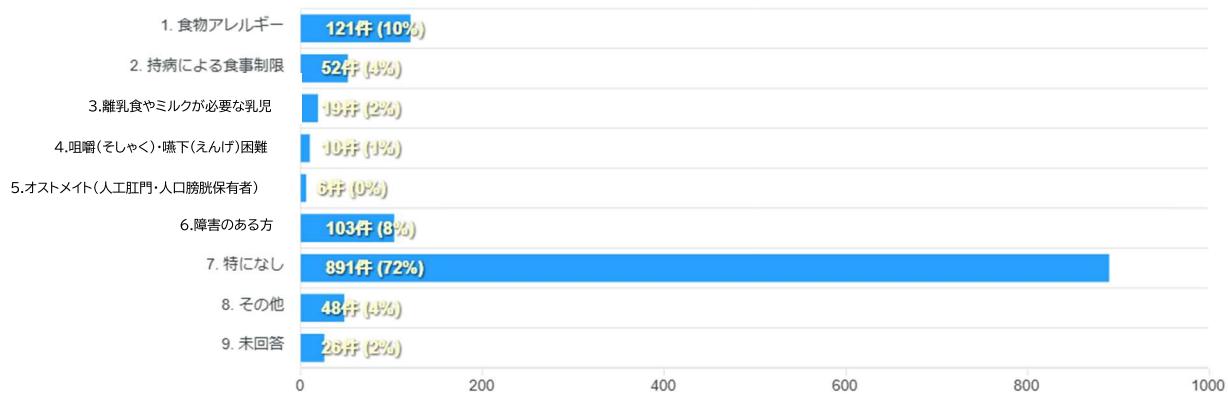
なお、「飲料水」及び「食料」を備蓄していると回答した方に対する「何日分備蓄しているか」の追加質問について、回答の平均値は、「飲料水」及び「食料」いずれも概ね「4日分」という結果でした。

おって、市では、指定避難所への持ち出しや自宅で避難生活を送ることを想定し、「7日分」の備蓄を推奨させていただいている。



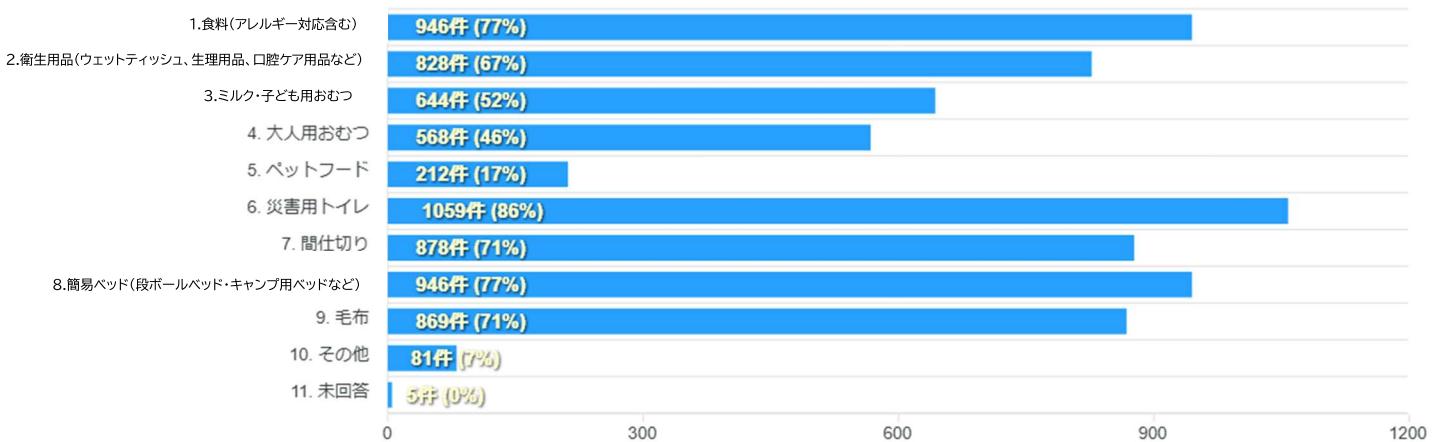
(6) ご自身や同居されている方の中で、アレルギーや特別な配慮が必要な方の有無について：複数選択可

「特になし」が72%と最も多い、「食物アレルギー」が10%、「障害のある方」が8%、「持病による食事制限」が4%でした。



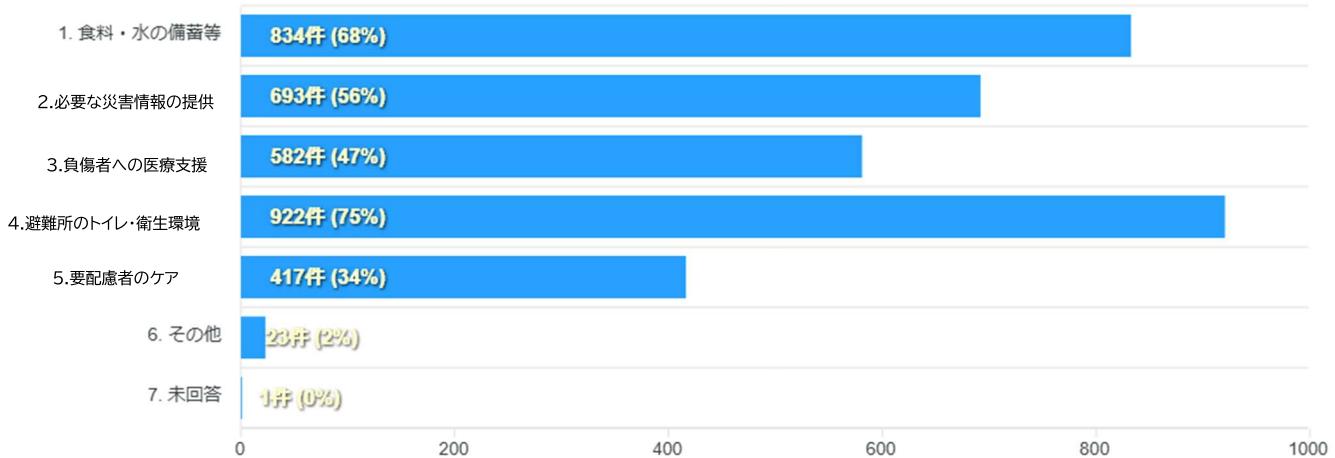
(7) 市が備蓄すべきと思う物資：複数選択可

「災害用トイレ」が86%と最も多い、次いで「食料（アレルギー対応含む）」、「簡易ベッド（段ボールベッド・キャンプ用ベッドなど）」が77%でした。



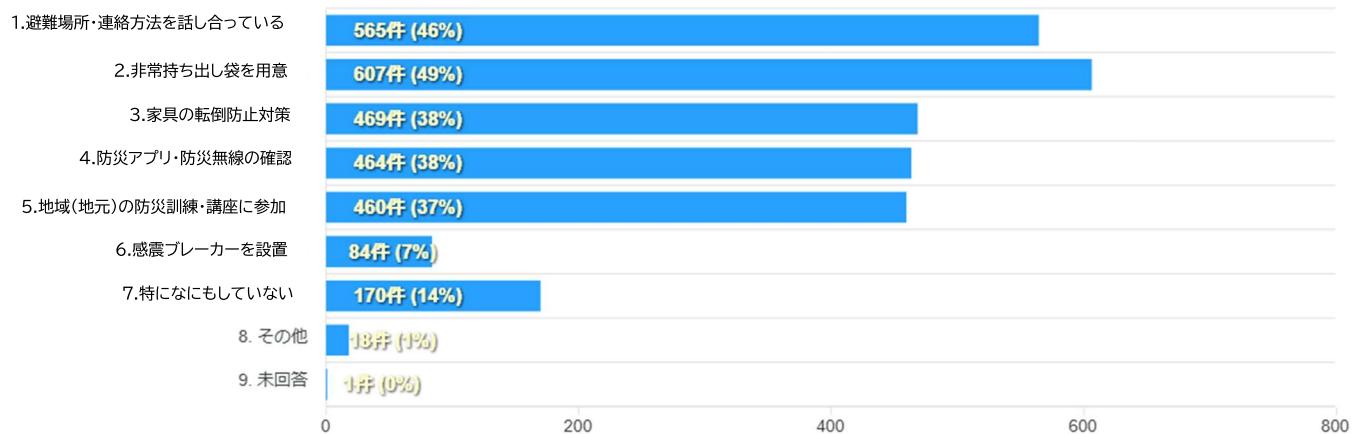
(8) 災害時における市役所による公的な支援で重要なと思うもの：3つまで選択可

「避難所のトイレ・衛生環境」が75%と最も多い、次いで「食料・水の備蓄等」が68%、「必要な災害情報の提供」が56%でした。



(9) 災害に備えていること：複数選択可

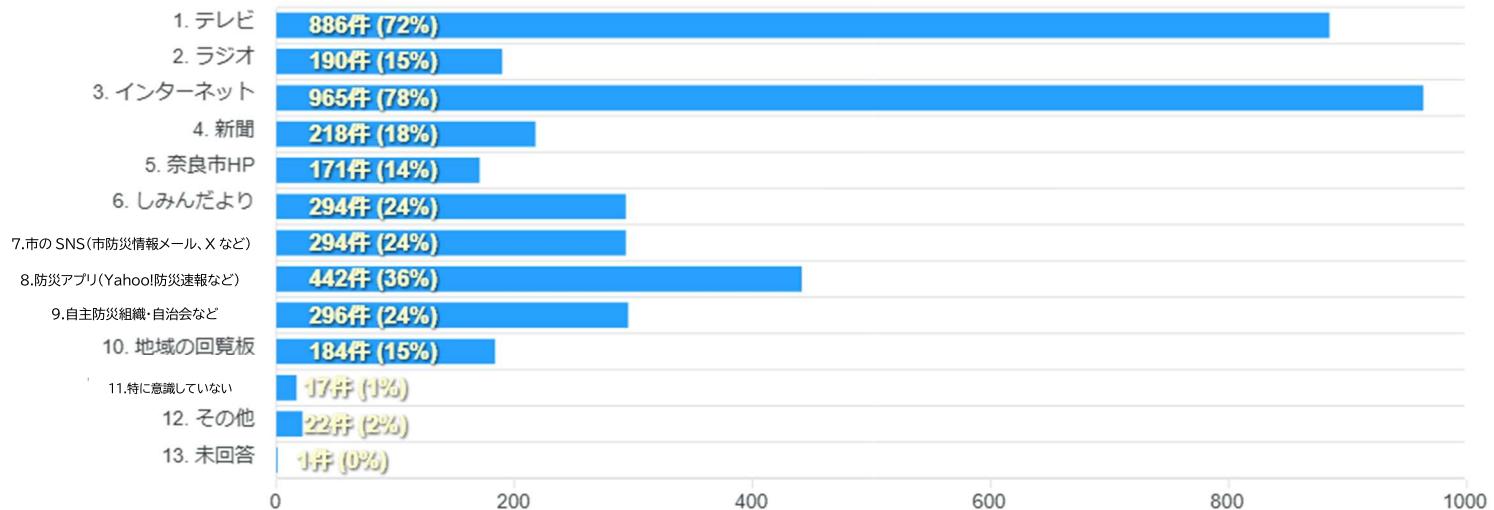
「非常持ち出し袋を用意」が49%、「避難場所・連絡方法を話し合っている」が46%、「家具の転倒防止対策」、「防災アプリ・防災無線の確認」が38%、「特になにもしていない」は14%でした。「地域（地元）の防災訓練・講話に参加」は、37%にとどまっています。「地震ブレーカーの設置」を選択した方は、7%でした。



(10) 普段、災害の危険性に関する知識や情報をどこから入手していますか：複数選択可

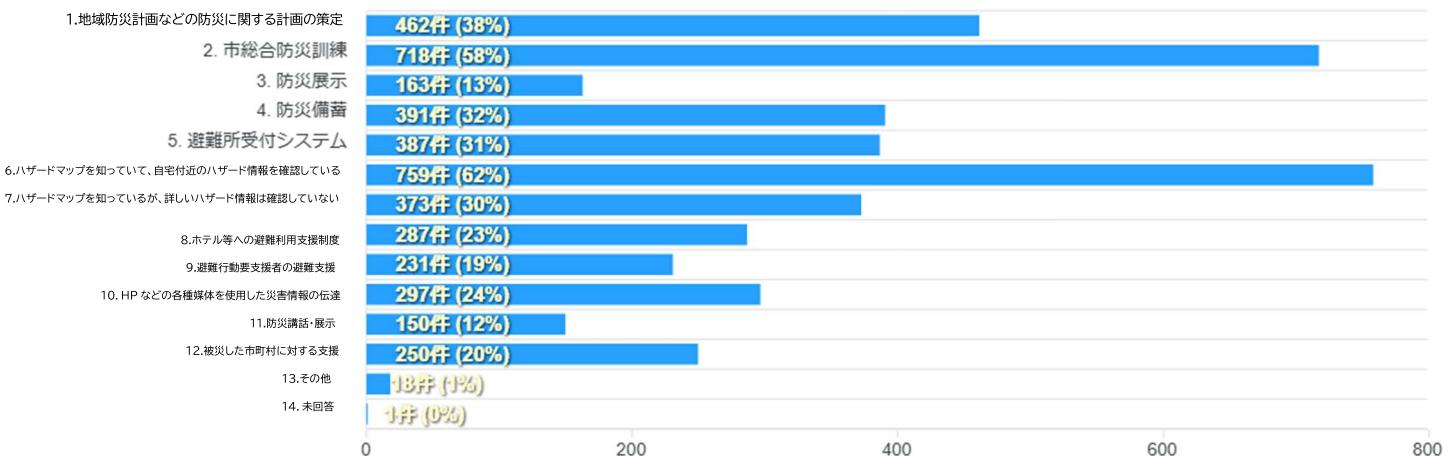
「インターネット」が78%と最も多く、次いで「テレビ」が72%、「防災アプリ（Yahoo!防災速報など）」が36%、「特に意識していない」は1%でした。

「奈良市ＨＰ」は14%、「地域の回覧板」、「ラジオ」は15%、「新聞」は18%と、インターネットや防災アプリなどと比較すると情報入手に係る活用頻度が低いことが分かりました。



#### (11) 奈良市の取組で知っているもの教えてください：複数選択可

「ハザードマップを知っていて、自宅付近のハザード情報を確認している」が62%と最も多く、次いで「市総合防災訓練」が58%、「地域防災計画などの防災に関する計画の策定」が38%でした。



#### (12) 市民の皆様に災害に対する理解を深めてもらうために、どのような取組が必要であると思いますか：複数選択可

「学校における防災教育」が58%と最も多く挙げられており、若年層への教育の重要性が認識されています。次いで「奈良市HPの「防災」ページの充実」が51%、「パンフレット・ポスターの配布」、「防災訓練」が47%でした。「その他」が7%であるところ、「しみんだより・各種SNSを用いた定期的な配信」、「民間活動組織への委託」などのご意見がありました。

